

冬の地震の備えは

備蓄の必要性、防災意識の高揚に努める



大谷 敏弥 議員

定例会2日目、5人の議員より一般質問が行われました。その内容を要約してお知らせします。

大谷 いつどこで発生するかわからない大地震。厳冬の道内で被災すれば、過酷な避難生活が予想される。その中で最優先すべき課題の1つは、防寒対策だ。冬の地震の備えについて、次の点について伺う。

1点目、真冬の北海道で、ライフラインが断たれた場合の防寒対策はなされているか。

2点目、防寒用品だけではなく、冬も救援や支援が届かない事も想定し、最初の三日間程度の飲食料品など備えているか。

町長 1点目、災害時の備蓄品として年次計画により毛布や敷マットを購入しており、本年11月末現在、毛布1690枚、

マット1140枚を備蓄している。

また、避難所における対策として、リース会社や石油業協同組合等との応援協定により、緊急時には優先的に各種機器や燃料等の供給を受けられる事となっている。

2点目、現在は食料備蓄はないが、給水対策として20リットルタンク100個、6リットルの袋3400枚を確保している。

非常時には、飲料水メーカーやコンビニ等との応援協定に基づく商品の提供や、北渡島・檜山北部4町による相互応援協定に基づく食料品・飲料水や生活必需品の提供など、各種協定を有効に活

用しながら、今後、食料品の備蓄についても検討する。

また、避難訓練や各種講演会などを通じ、引き続き各家庭における備蓄の必要性など、防災意識の高揚に努めたい。

大谷 1点目、リース

会社等と協定しているようだが、道路の寸断や停電が起きたら、機器や燃料の供給は遅くなる。この避難所も電気で稼働する設備が多く、停電時には厳しい寒さに耐えなければならぬ可能性もある。その点、石油ストーブは停電時でも暖を取れ、煮炊きもでき便利だ。避難所に数台石油ストーブを保管してはどうか。

2点目、物資がすぐに供給されない事も想定し、最低限3日間程度の食料品があれば、町民の被害は最小限に抑えられると思うが。

町長 1点目のポータ



備蓄中の毛布

ブルストープは、灯油を入れておくと灯油が劣化してしまう。着火装置も電池が入ったままでは腐食する。リース会社との協定により、緊急対応できるものと確信しており、ポータブルストープの用意は考えていない。

2点目の飲食料品には賞味期限があり、大量備蓄は無理である。

例えば、それを按分して何分の一かずつ備蓄し、賞味期限が近づいた飲食料品を避難訓練時に参加者に配付するなど、そういった事も考えながら進めたい。